

調査団体名	志摩半島野生動物研究会	団体代表者名	若林郁夫
活動地域	志摩半島、松名瀬干潟、五カ所湾	団体URL	<a href="http://shima-yaseiken.sakura.ne.jp/">http://shima-yaseiken.sakura.ne.jp/</a>
<p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>1988年よりウミガメ調査を行う。会員は80人。常時活動しているのは数人である。          会員の中には、ミサゴ、ミヤコドリ、海浜植物、海浜生昆虫の調査をしている人がいる。          松阪より南のウミガメの産卵の変化、死体の調査を行っている。漂着死体の確認は行われているものの、ウミガメ、スナメリなどは漁網に掛かって死んでおり、その数は公になっていない。          若林さんは、鳥羽水族館にイルカの飼育員として勤務されている。          志摩半島野生動物研究会の活動は水族館には反映されていない。ただし、ウシモツゴ調査は、水族館で行っている。          小学校にウミガメ学習会の講師として出向く。国土交通省中部地方整備局三重河川事務所の伊勢湾西南海岸懇談会委員として、波の影響からウミガメの卵を守るための移植、海岸工事の改善点などの指導を行う。</p>			
<p>&lt;連携している団体・専門家・自治体など&gt;</p> <p>調査データを記録するという基本を着実にを行う。(今回の紹介者は、ウミガメ協議会で同様の調査活動を行っている徳島の井口利枝子さんで、若林さんの調査が行き届いたものであることを聞いている)          調査データを基にして、行政に意見を言うということまではできていない。</p>			
<p>&lt;今までに行った調査・研究&gt;</p> <p>ウミガメ、ミサゴ、ミヤコドリの調査。スナメリの分布調査。          最近、いないと思われていた箇所でもシオマネキ、ハクセンシオマネキを確認している。          離島の無人島である和具大島は暖地性植物群落として保護対象地である。その島で、ウチヤマセンニュウの繁殖確認。国指定天然記念物オカヤドカリ(南方系)を記録。伊勢湾岸でカワラハンミョウ(RD種)の新たな生息地も確認されている。          参考資料:「三重の生きものだよ」(通信)、漁業者へのアンケート調査から見た伊勢湾のスナメリ生息状況(三重自然誌第11号)</p>			
<p>&lt;現在直面している課題&gt;</p> <p>伊勢湾ではトビハゼが減少しているのではないかと。干潟、砂浜も減少している。ウミガメのために砂浜の照明は黄色に変えてほしい。シオマネキ類は三重県RDBに挙げられているが、分布などの調査が不十分である。          和具大島で、ユッカラン(外来種)駆除に取り組む。          若い人の参加がなく、調査を継続するのが難しい。          漁業との摩擦があり、網漁業によってウミガメやスナメリが混獲され死亡しているし、底引き網や海苔養殖などによって海中の生態系が壊されている。</p>			
<p>&lt;今後どんな情報が必要か&gt;</p> <p><input type="radio"/> 周辺他団体の活動状況  <input type="radio"/> 助成金</p>			



磯の観察会



和具大島のユッカラン駆除



アカウミガメの卵の移植